

## 令和元年度 未来都市創造に関する特別委員会 委員長報告（案）

未来都市創造に関する特別委員会の活動状況について、ご報告申し上げます。

本委員会は、三宮周辺・ウォーターフロント地区における都心の再生や市街地西部地域などの活性化の原動力となる神戸独自の魅力をいかに創出するか、またその基盤となる潤いある都市空間の整備や新たな交通手段を含む総合交通体系の整備など、人口減少社会も見据えた新たな時代の神戸のまちづくりに関する必要な事項について、調査・研究し、議会の立場から政策提言を行うことを目指して、平成26年度に設置された委員会であります。

三宮再整備の事業期間が概ね30年間で、段階的にまちの再整備を進めていく予定であることから、令和元年度の本委員会では、30年後の2050年に神戸が生き生きとした魅力あふれるまちであるためにはどんな視点が必要なのか、様々な観点から調査、議論を行いました。

委員会では、当局からの報告聴取に加え、テーマを定めて参考人を招致し、意見聴取及び意見交換を行うとともに、他都市の先進事例についても調査を行いました。

参考人招致では、まず、総合地球環境学研究所 特任教授 の <sup>さいじょう</sup>西條 <sup>たつよし</sup>辰義氏を迎え、長期的な政策課題を検討する際に、将来世代の視点を取り入れて意思決定する「フューチャー・デザイン」という手法について、意見聴取を行いました。

委員会では、まちづくりにこの手法を導入した他都市の先進事例を参考にしながら、導入のポイントや効果について、意見交換や討議を行いました。

次に、一般財団法人計量計画研究所 理事 の <sup>まきむら</sup>牧村 <sup>かずひこ</sup>和彦氏 を迎え、「新モビリティ社会と交通まちづくり」について、意見聴取を行いました。

委員会では、<sup>マース</sup>MaaSや<sup>ケース</sup>CASEなど新たなモビリティサービスを活用した、誰もが移動しやすいまちづくりや、新たなモビリティと一体化したスマートシティづ

くりについて、国内外の先進事例等を参考にしながら、神戸に導入する際のポイントを中心に、意見交換や討議を行いました。

次に、西日本電信電話株式会社ビジネス営業本部クラウドソリューション部ビジネスイノベーション営業推進担当部長の井口<sup>いぐち</sup> 法文<sup>のりふみ</sup>氏、同社兵庫支店長の川副<sup>かわぞえ</sup> 和宏<sup>かずひろ</sup>氏を迎え、「Society5.0に向けたICTの活用による地域課題の解決」について、意見聴取を行いました。

委員会では、省電力で広域通信を可能にするLPWAの活用により、地域での様々な課題を解決した他都市の先進事例等を参考にしながら、導入のポイント・効果を中心に、意見交換や討議を行いました。

その後、新たなモビリティ社会に対応したまちづくりや、駅前再整備のあり方等について考察を深めるため、他都市の先進事例について調査を行いました。

愛知県名古屋市の名古屋大学未来社会創造機構では、新たなモビリティサービスを導入することで、地域特性に合わせた多様な移動手段を確保する取り組みについて、また、神奈川県川崎市では、駅前のまちづくりとミュージアム川崎シンフォニーホールの整備の経緯や運営等について、説明聴取と実地視察を行いました。

これらの調査活動を踏まえ、委員間討議を重ねた結果、急速な技術革新や時代のニーズ、都市の課題に柔軟に対応しつつ、他にはない神戸らしさ、神戸の魅力を創出するため、提言書「2050年を見据えた神戸のまちづくりについて」を取りまとめ、6月17日に久元市長に提出いたしました。

以上、委員会の活動状況についてご報告を申し上げますが、今年に入り、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大が社会経済活動の前提を一変させました。集客性や回遊性、モビリティに対する考え方など、今後まちづくりにも大きな転換が迫られています。今期の委員会では、新型コロナウイルス感染拡大後の様々な課題についての調査、議論を行うことはできませんでした。それについては改めて次期以降の委員会で調査し、議論を深めていただきたいと思います。

当局におかれては、輝ける未来都市神戸の創造に向けて、これまでの提言や委員会における意見・要望に加え、新型コロナウイルス感染拡大後の様々な課題等も踏まえて、新たな視点から検討のうえ、取り組んでいただくよう要望し、委員長報告といたします。